

---

# **短編をまとめて連載小説にする**

日南六町

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

「PDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

短編をまとめて連載小説にする

### 【Zコード】

Z8821Z

### 【作者名】

日南六町

### 【あらすじ】

短編って案外読まれないものです。そのためここには様々な短編小説、その他1ページ完結の物のみを掲載する所とします。最初は原作数は少ないですがいざれ増える……？ のでしょうか……。

都合上、最後のページに必ず新しいものが入るわけではないので注意してください

それは賀藤登紀子と回り床屋で焼り上げたんですか？（前書き）

銀魂、レンホウ篇の番外編です

それは賀藤登紀子と回り床屋で刈り上げたんですか？

むかしむかしあるとひにレンホウというそれはそれは襟の立つた人物がいました

銀時「なんでまた回想シーン！？　いい加減にしろよ…」

レンホウは髪型に悩んでいました。自分の髪型を刈りあげにするからあげにするか

新八「髪型をからあげってどんな髪型なんですか！」

でも髪型を刈り上げにするならいつそからあげでもいいんじゃないか、いやしかしからあげにすると刈り上げの感触が捨てがたい。かといって刈り上げにするとからあげのからとあげ、からあげにするとかりとあげが捨てがたくレンホウは迷っていました

銀時「刈り上げからあげってしつこ過ぎだらうが！」

彼女は床屋の前を通るたびにこつむこのことを考えていました

新八「よく何度もそんな長いこと考えられますね……」

ある日、彼女はふとある床屋に入りました

銀時「もつサッサと刈り上げてこの話終わらせててくれ！」

するとそこにはあの賀藤登紀子がいました

新ハ「あの賀藤登紀子ってどの賀藤登紀子!…」

賀藤登紀子は刈り上げをしていました。それを見たレンホウは……  
店を飛び出しました

銀時「なんだ! 先に刈り上げたのがそんなにショックなのか  
レンホウ!」

せっかくオンリーワンになれると思つたのに……レンホウはひどく  
落ち込みました

新ハ「落ち込んでないで早く刈り上げて!」

レンホウは家に帰つて夫にこのことを話しました。すると夫はこうつ  
いいました。「たとえ同じ」とでも少しでも違えばそれはオンリー  
ワンなのだから

銀時「ナイス旦那! 床屋に行けレンホウ!」

さらに夫は「オンリーワンにならなくてもいい。元々自分自身がオ  
ンワーワンなのだから」とレンホウに言いました。

新ハ「なんか……どつかの歌の歌詞みたいになつてるんですけど…  
…」

レンホウは走り出しました。立ちすぎた襟を気にすることもなく!

銀時「少しばかりは気にしないレンホウ! お前それ痛くねえのか!」

走りに走つてやつた賀藤登紀子のいた床屋にレンホウはたどり着き

ました

新八「早く」の回想終わらせて！」

そして目の前にはバリカンを持った床屋の主人がいました……

銀時「なんで急に画面白くなるんだ！？ 時間飛ぶのか！？」

翌日、レンホウが自宅に帰つてきました。後ろ髪が刈り上げてあります。

新八「ついにレンホウが刈り上げた！」

主人は「それは賀藤登紀子と同じ床屋で刈りあげのか？」とききましたするとレンホウは

「いいえ自分で」

A～C～

銀時、新八「なんでここだA～Cだ！」

そう、レンホウはその時……

マジやばーい 仲間と ポポポボーン

銀時、新八「またA～Cかい！」

銀時「なんでポポポボーンを伏字にしてるんだ！」

新ハ「さつき床屋の主人、レンホウのマジやばこ仲間たちでよなライオンされてるじゃないですか！」

そしてレンホウは一畠田の刈り上げ議員とこいつを一畠田にいるべく仲間たちと暗躍したのでした

おしまー

銀時、新ハ「そりゃだれも見よつと想わないだろ？が！」

ドロップキックがフリーハイ炸裂した

それは賀藤登紀子と回り床屋で焼け上げたんですか？（後書き）

ネタ探し中です。

I S 騷がす外野（前書き）

OVAでのスーパーの光景とは完全に別物です。

## IS 騒がす外野

ある夏休みの日の夕方……とあるスーパーでは異様な雰囲気が立ち込めていた……

それはある人物たちを見ての事だつた。スーパーの中にいた客や従業員のほとんどの視線の先にいたのは……

「そういうえばセシリアとかラウラとかスーパーつてきたことがあるのか？」

「わたくしはデパートとかが多いので」「ついづ所は初めてで……」

「私もつい最近までは行つたことがなかつた」

一夏たち専用機持ち6人だつた。

夏休みも佳境に入つたある日、全員が一夏の帰省中に突撃訪問して来ていた。あれやこれやと過ごしているとすでに夕方になつっていたので夕食を一夏のために全員で作ることとなつた。そのための材料探しにやってきているのだが……

ザワザワ……

何やら周りが騒々しい。しかしそれを全く気にせずの一夏はカートにカゴを上下に入れた。

騒々しい原因がわかつていいのは一夏だけのようだ……

何せ美少女が五人（しかもいろんな種類）が一斉に現れたんですか  
ら……そりゃ騒ぎにもなりますよ……

向こうでは部活帰りと思われるナンパ高校生五人組が品定めをして  
いるようで……

「うわー……レベル高ー」

「あの男ハーレムじやん……つらやましこ……」

「俺あの銀髪の子がいいな~」

「俺はショートの金髪の子がいい」

「あっちのロングの金髪も捨てがたい……」

「なんとしても連絡先を掴むぞ!」

「　　「　　「おーーー」」

もちろんこの会話は一夏たちには全く聞いていない。

一方の一夏達……女子ズがメニューのための食材探しを開始してい  
た。

まずは鳳鈴音の場合……

「えーと……いるのはジャガイモと人参と玉ねぎと……」

手一杯に必要なものを持つ鈴。するとそこに現れたナンパ<sub>高校生B</sub>

「君、重そうだね？ 持つてあげようか？」

本人いわく最高の決めポーズを決めるナンパB。しかし……

「はあ？ 何言ってるの？ 重くもないのに持つてもらつ必要なんてないし。あんた何様のつもり？」

鈴にバッサリと切り捨てられる

「で、でも……」

「…………」

「ううそこわねー。しつこいのは嫌われるわよ  
「みる」

食い下がろうとしたが失敗。

続いてセシリア・オルコットの場合……

「あら……トマトが足りませんわ」

野菜売り場に戻るセシリア。トマトを見つけて取らうとしたとき

「あつ……」

ナンパ高校生Eも手を伸ばして見た。どう考へても不自然だが。

「あ……」れども……」

「そうですか。 もうひとつおきますわ」

「で、 できれば君の連絡先を……」

「島国の人間に渡す連絡先などありませんわ」

一刀両断……

### 続いてラウラ・ボーテヴィッヒの場合

（おでんとは串に刺して煮るものなのか…… 串を置つておく必要があるな……）

また変な日本の知識を教えられたラウラ。まあクラリッサが原因だらうが。

串を手に入れたラウラに近づくナンパ高校生C

「君、 これから俺といつまこキリマンジャロ飲みにいかない？」

旧式の口説き文句とおぼしきものでラウラに声をかける。しかしラウラは……

「はい、 貴様！」とセントコーヘーの違いが判るとでも？

「え？ エ……そりや……」

「消える田障りだ」

「ひつー。」

持っていた兜の袋を破つて相手に突き付けたラウリだつた……

続いてシャルロット・デュノアの場合……

シャル（一夏の言つてた大根おろし入りのから揚げを作ろ）

スーパー内の精肉店で鶏肉を買つ。そこへ現れたのはナンパ高校生D

「彼女の分、全部払うよ」

そういうて五千円札を置くナンパD。しかし、シャルはそれを完全スルーして代金を払い終える。

「お、おいー、君ー。」

「これ以上すると警察に通報するよ。」

笑顔の向ひにとてつもない殺氣が渦巻いていた。

最後に篠ノ之箒の場合……

「いいカレイはないものか……」

カレイを品定め中の箒。するとその後ろにナンパ高校生Aが……

「いい男はいかがかな?」

これまた本人曰く「これで落ちなかつた女子はいない」と豪語しているやり方だつた。

グイッ

「な、なんすんだ!」

ナンパAが振り向いたそこには

「俺の仲間に何やつてんだ!」

一夏がいた……これを見た箒は

(俺の箒に何やつてるんだ! かあ……あいつめ! あいつめ!)

暴走特急が急発進で発車していったとか。

その後六人は会計を済ませ織斑邸へと戻つていった。

無論、このナンパ五人組が他の買い物客に白い目で見られたという事は言うまでもない

I S 騷がす外野（後書き）

セシリアの料理下手を全員で止めるとは思ってませんでした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8821z/>

---

短編をまとめて連載小説にする

2011年12月27日19時49分発行